

首20-2-20

4-2 震源断層モデルの高度化 に関する調査研究 (京都大学防災研究所)

平成20年度業務とその成果（概要）

首都直下で発生するスラブ内地震等の強震動予測のための震源断層モデルを高度化するため、平成20年度は以下のような調査研究を実施した

- (1) スラブ内地震の震源インバージョン結果の収集・分析と断層パラメータのスケーリング経験式の構築
波形インバージョンによるスラブ内地震の震源モデルを追加収集した。破壊領域、アスペリティ領域とも内陸地殻内地震やプレート境界地震よりも面積が小さいことはスラブ内地震に共通する震源特性である。断層面積、アスペリティ総面積、平均すべり量の地震モーメントに対する経験式を構築した。
- (2) スラブ内地震等の広帯域震源モデルの構築
2008年7月24日岩手県沿岸北部の地震を対象に、経験的グリーン関数法を用いた広帯域震源モデリングを実施した。
- (3) 重要なスラブ内地震・プレート境界地震の記録が得られた強震観測点のサイト特性調査
2003年（スラブ内）、2005年（プレート境界）宮城県沖地震の強震観測点での微動観測を実施した。

収集した震源モデルの情報

発震日	地震名	Mw	震源 深さ	断層 タイプ	震源モデル
2008/7/24	岩手県沿岸北部の地震	6.9	115 km	正断層	Suzuki et al. (2008)
2005/6/13	Tarapaca地震 (Chile)	7.7	108 km	正断層	Delouis and Legrand (2007)
2003/5/26	宮城県沖の地震	7.0	72 km	逆断層	青井・他 (2005)
2001/3/24	芸予地震	6.8	46 km	正断層	Kakehi (2003) 関口・岩田 (2002)
2001/2/28	Nisqually地震	6.8	56 km	正断層	Ichinose et al. (2004)
2001/1/13	El Salvador地震	7.7	54 km	正断層	Vallée et al. (2003)
1999/9/30	Oaxaca地震 (Mexico)	7.5	40 km	正断層	Hernandez et al. (2001)
1997/1/11	Michoacán地震 (Mexico)	7.0	35 km	正断層	Santoyo et al. (2005)
1994/10/4	北海道東方沖地震	8.3	64 km	逆断層	Shao et al. (2006)
1965/4/29	Seattle-Tacoma地震	6.6	60 km	正断層	Ichinose et al. (2004)
1949/4/13	Olympia地震	6.8	60 km	正断層	Ichinose et al. (2006)

※11地震の12震源モデルについて、Somerville et al. (1999)で提案されている規範に従い、破壊領域とアスペリティの特性化を行った

※Cascadiaの3地震については、原論文にSomerville et al. (1999)の方法に基づく特性化の数値が記載されているので、スケーリングの検討にはその情報を使用した

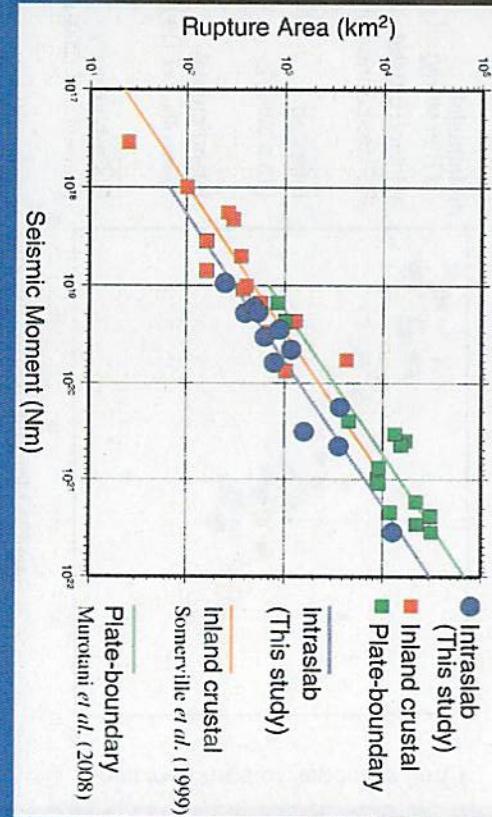
スラブ内地震の断層パラメータ

地震名	Mw	震源深さ (km)	断層面積 (km ²)	アスペリ ティ(km ²)	S _a /S	Δσ _a (Mpa)		
2008 岩手県沿岸北部	6.9	115	900	94%	96	45%	0.11	24
2005 Tarapaca	7.7	108	1600	29%	400	32%	0.25	60
2003 宮城県沖	7.0	72	784	48%	108	30%	0.14	49
2001 芸予	6.8	46	540	74%	81	49%	0.21	24
	7.0		630	58%	135	56%	0.15	24
2001 Nisqually	6.8	56	496	74%	45	30%	0.09	40
2001 El Salvador	7.7	54	3600	58%	733	53%	0.20	25
1999 Oaxaca	7.5	40	3713	113%	731	99%	0.20	10
1997 Michoacán	7.0	35	1176	89%	320	108%	0.27	10
1994 北海道東方沖	8.3	64	12705	53%	2640	49%	0.21	29
1965 Seattle-Tacoma	6.6	60	248	54%	28	27%	0.11	52
1949 Olympia	6.8	60	396	54%	36	22%	0.09	65



同規模の内陸地殻内地震に対して、Somerville et al. (1999)の経験式から予測される面積に対する比

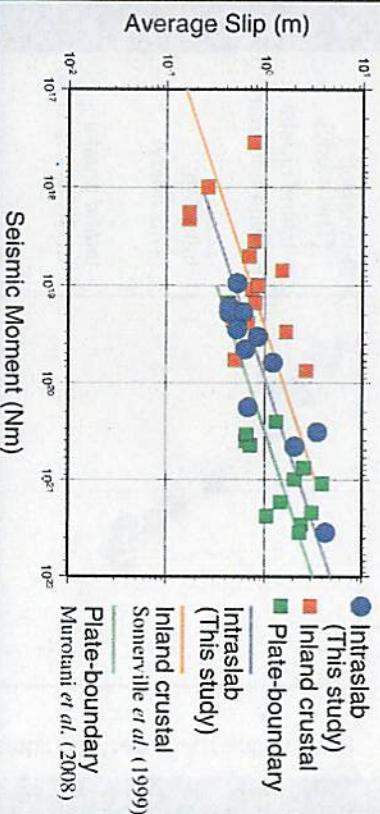
断層面積と地震モーメントの関係



断層面積は同規模の内陸地殻内地震に比べて約 $67 \pm 22\%$ の値

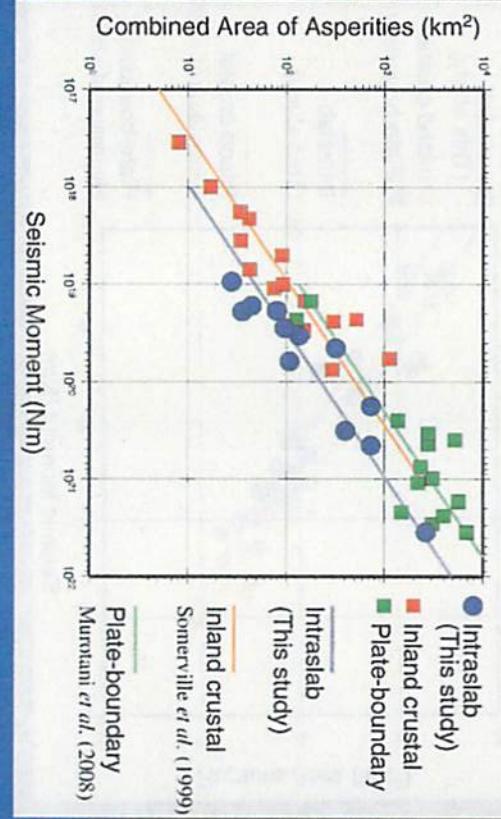
平均すべり量と地震モーメントの関係

Average Slip vs Seismic Moment



平均すべり量は同規模の内陸地殻内地震に比べて大きい、
プレート境界地震よりは大きい、

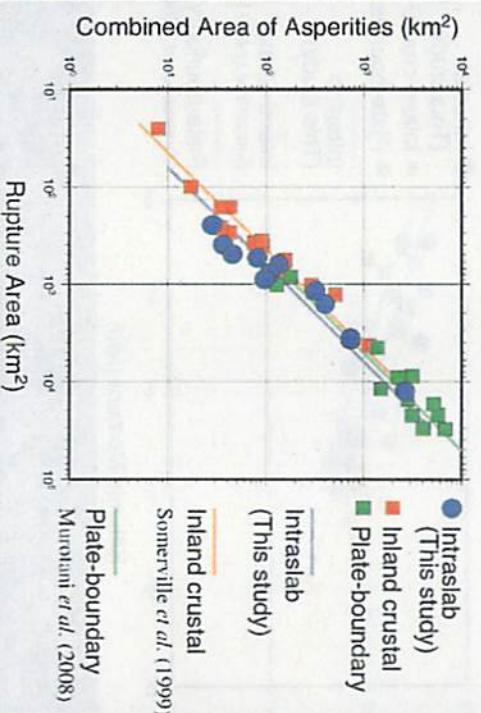
アスペリティ総面積と地震モーメントの関係



アスペリティ総面積は同規模の内陸地殻内地震に比べて約 $50 \pm 26\%$ の値

断層面積とアスペリティ総面積の関係

Combined Area of Asperities vs Rupture Area



スラブ内地震のスケーリング経験式の構築

1) 断層面積 S [km²] と 地震モーメント M_0 [Nm]

$$S = 6.57 \times 10^{-11} M_0^{2/3}$$

2) アスペリティ総面積 S_a [km²] と 地震モーメント M_0 [Nm]

$$S_a = 1.04 \times 10^{-11} M_0^{2/3}$$

3) 平均すべり量 D [cm] と 地震モーメント M_0 [Nm]

$$D = 2.25 \times 10^{-5} M_0^{1/3}$$

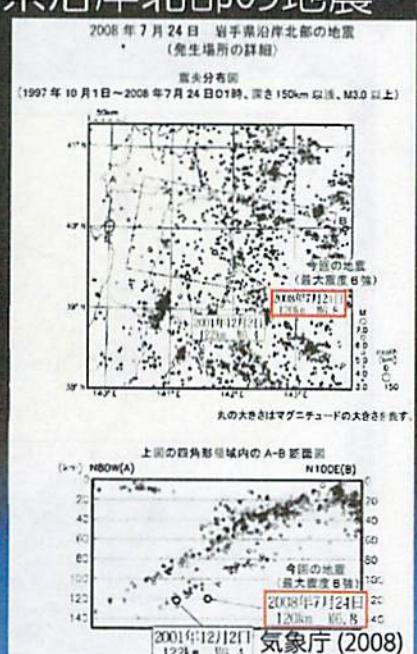
2008年7月24日岩手県沿岸北部の地震

太平洋スラブの二重地震面の下面で発生した正断層型の地震
 M_{JMA} 6.8, M_W 6.8

東北地方の下面の地震としては
 1923年以降で最大の地震

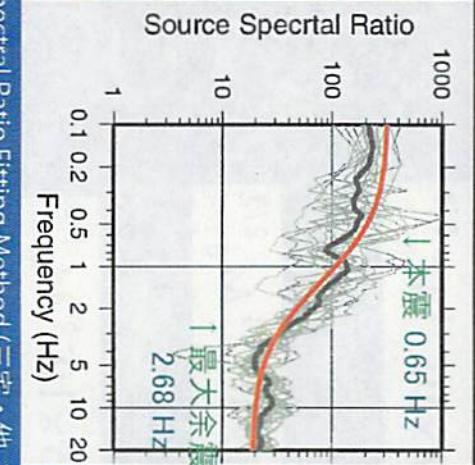
経験的グリーン関数法を用いた
 広帯域強震動シミュレーション
 によって2008年岩手県沿岸北部
 の地震の震源モデルを推定し、
 既存のスラブ内地震との比較を
 実施した

解析にはKiK-netの強震記録を使用した



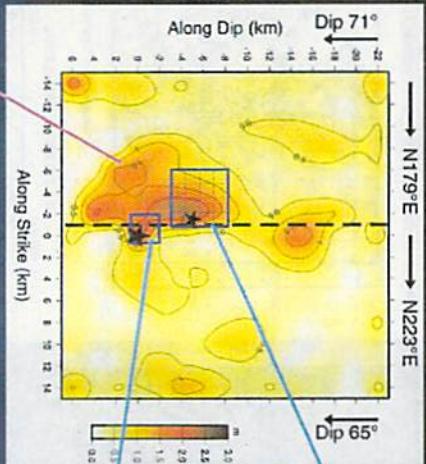
本震と余震(EGF)のスペクトル比の解析

本震：2008年7月24日 00時26分 M_w 6.8
余震：2008年7月24日 11時28分 M_w 5.1



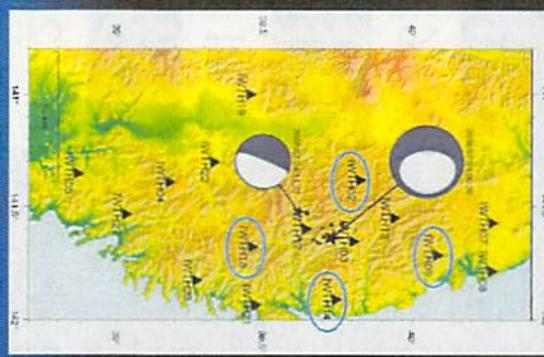
Spectral Ratio Fitting Method(三宅・他, 1999)を用いて、本震と余震のコーナー周波数を推定(モーメント比はF-netの値)

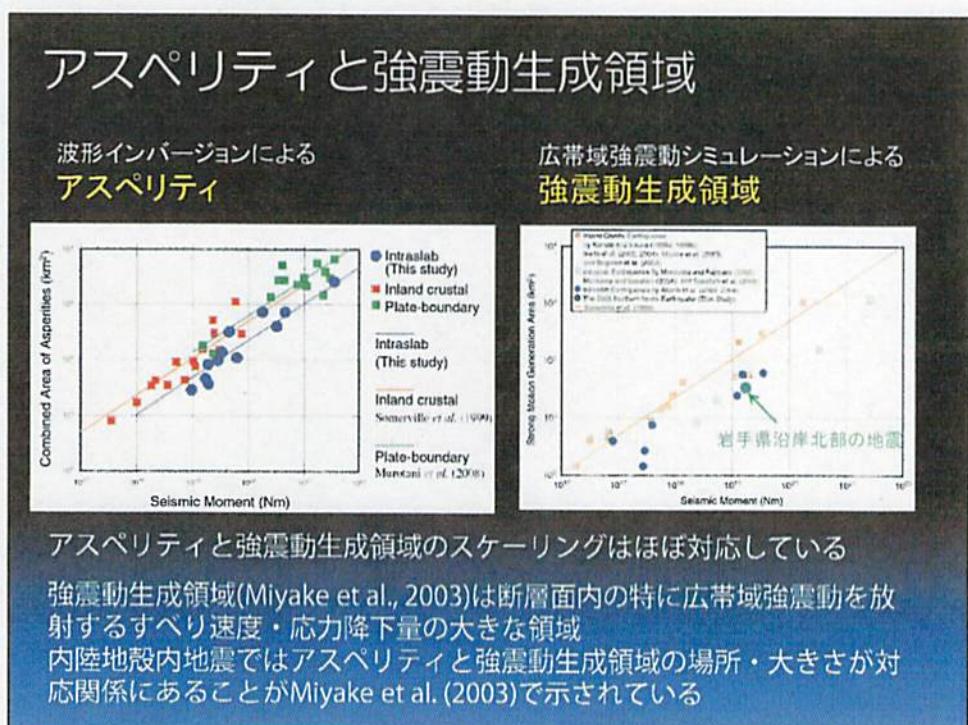
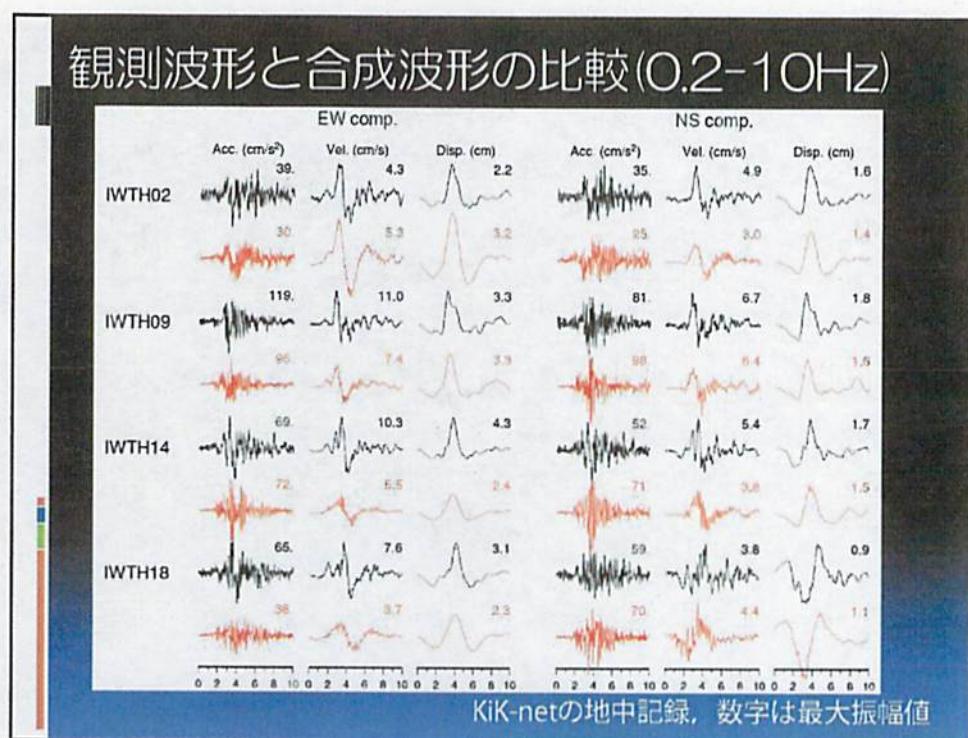
推定された震源モデル



すべり分布はSuzuki et al. (2008)による強震波形(0.1-1Hz)のインバージョン解析から求められたもの

強震動生成領域No.2	長さ	5.2 km
	幅	5.2 km
	面積	27.0 km ²
ライズタイム		0.16s
	応力降下量	1.51×10^{19} Nm
	破壊時刻	262 MPa
強震動生成領域No.1	長さ	2.6 km
	幅	2.6 km
	面積	6.8 km ²
ライズタイム		0.08s
	応力降下量	1.89×10^{18} Nm
M_0		262 MPa





平成21年度業務計画

平成20年度までに得られたスラブ内地震のデータベースに基づいてすべり分布の不均質性の特性化を行った。これらの分析によって得られた不均質特性を反映させた震源モデル構築手法に従って、既存のスラブ内地震の強震動評価を行い、その妥当性や適用性を検討するとともに、強震動予測の高度化に向けたパラメータの整理を行う。対象とする地震としては、2003年宮城県沖、2001年芸予地震等とする。いくつかの破壊シナリオを設定し、経験的グリーン関数法、及び統計的グリーン関数法による強震動シミュレーションを行い、観測強震記録と比較して、モデル構築手法の適用性を検討する。